



平成 20 年 7 月 16 日

ジーエヌアイが米国 EpiCept 社と提携し、アジアでの肝疾患治療薬の開発を行う

当社はバイオ企業 EpiCept Inc.（本社：米国。以下 EpiCept）と、アジア、豪州およびニュージーランドにおいて、肝疾患のための新治療薬「EP1013」の開発を行うことで合意したことをお知らせいたします。EpiCept は、上記以外の地域における権利を保有しています。当社 100%子会社の上海ジェノミクスは、これを受けてただちに中国での臨床試験に向けた新薬治験申請の準備を始めました。

EP1013 は、細胞死や炎症反応で中心的役割を果たしている酵素であるカスパーゼに対して、強力で不可逆的な阻害効果をもつジペプチド化合物です。EpiCept と上海ジェノミクスによる EP1013 の初期テストでは、肝不全、脳虚血および心筋梗塞の動物モデルにおいて、顕著な効果を示しています。EP1013 は EpiCept で開発され、米国、中国その他主要地域での特許を取得しています。

肝疾患は中国では国民的な病気で、B 型肝炎ウイルスの感染者は 2 千万人以上にも及んでいます。末期の HBV 感染は、肝細胞の機能障害が特徴となっており、慢性的な細胞死を引き起こします。肝移植はある患者には有効ですが、高額であることと移植までに時間がかかるというマイナス面があります。肝細胞死と炎症の抑制は、患者の肝機能を改善させ、肝疾患の新規治療は、中国と日本において、当社に大きな市場機会をもたらします。当社は毒性試験と薬物動態試験を早期に終了し、中国 SFDA へ新薬治験申請を行いたいと考えています。

ジーエヌアイおよび上海ジェノミクスの CEO であるイン・ルオ博士は、「社内開発と外部での共同開発の双方とも当社の研究開発戦略にとって重要な要素です。EP1013 は、肝線維症の第 1 相臨床試験中の薬剤候補である F351 を補完するものです。アジアにおいてこれら 2 つの製品を開発することにより、当社は肝疾患治療において中心的な役割を担うことができると考えています。」と述べています。

EpiCept の代表取締役社長兼 CEO のジャック・タリーは、「がんと疼痛管理という当社の中核分野以外の治療分野において、ジーエヌアイと EP1013 の開発を加速するためのコラボレーションが構築できたことをうれしく思います。カスパーゼ阻害剤は、アポトーシス細胞死を含む、変性疾患治療における新規治療方法を提供することになります。」と述べています。

ジーエヌアイについて

2001年に設立された臨床段階の国際的な創薬企業で、日本に本社があり、中国上海で臨床事業等を行っています。長期に渡る創薬研究の後、がんと炎症において薬剤候補のポートフォリオを構築。2005年6月には、中国上海において、統合創薬と開発プラットフォームを構築している上海ジェノミクスを買収。ジーエヌアイと上海ジェノミクス双方の強みは、主要な国際的製薬企業との共同研究に結びついています。ジーエヌアイはまた、上海中心部近郊に中国SFDAからGMP承認を得た、15,900平米以上の製造工場を持つ上海衡山薬業有限公司の買収過程にあります。詳細は、ホームページwww.gnipharma.com と www.shanghaigenomics.com をご覧下さい。

EpiCept について

EpiCept は、がんと疼痛治療におけるアンメット・ニーズに特化しています。臨床開発中の数種類の疼痛治療薬や、第3相臨床試験における効果実証済みである急性骨髄性白血病治療薬（最近医薬品販売承認申請後、欧州で再試験中）など、医薬品候補の幅広いポートフォリオを有しています。加えて、特許で守られたカスパーゼ3の細胞レベルでのハイスループット・スクリーニング技術など、EpiCept の ASAP (Anti-cancer Screening Apoptosis Platform) 技術は、選択的にがん細胞のアポトーシスを誘発する新規がん治療薬候補と分子ターゲットを効果的に同定します。この技術を使って発見された、現在臨床開発中の2つのがん治療薬候補もまた、さまざまな固形がんの血管破裂治療薬剤としての作用が示されています。

お問い合わせ

株式会社ジーエヌアイ 経営管理部

電話：03-3580-0751（代）

E-Mail: ir@gene-networks.com